



IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of : **Attn: BOX MISSING PARTS**
Kazuo KOHNO : Docket No. 2004_0022A
Serial No. 10/758,004 : Group Art Unit 2832
Filed January 16, 2004 : **Confirmation No. 5018**

WOUND-ROTOR TRANSFORMER AND
POWER SOURCE DEVICE USING SAID
WOUND-ROTOR TRANSFORMER

CLAIM OF PRIORITY UNDER 35 USC 119

Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

Applicants in the above-entitled application hereby claim the date of priority under the International Convention of Japanese Patent Application No. 2003-12537, filed January 21, 2003, Japanese Patent Application No. 2003-379368, filed November 10, 2003, and Japanese Patent Application No. 2003-406767, filed December 5, 2003, as acknowledged in the Declaration of this application.

Certified copies of said Japanese Patent Applications are submitted herewith.

Respectfully submitted,

Kazuo KOHNO

By Michael S. Huppert
Michael S. Huppert
Registration No. 40,268
Attorney for Applicants

MSH/kjf
Washington, D.C. 20006-1021
Telephone (202) 721-8200
Facsimile (202) 721-8250
May 17, 2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 1月21日
Date of Application:

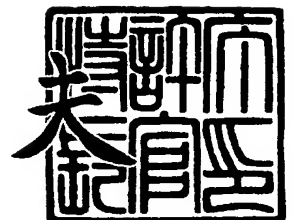
出願番号 特願2003-012537
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP 2003-012537]

出願人 河野 和夫
Applicant(s):

2003年12月19日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井 康



出証番号 出証特2003-3105683

【書類名】 特許願

【整理番号】 KK03P02

【あて先】 特許庁長官 殿

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県山武郡大網白里町四天木 3 3 2 - 3 0

【氏名】 河野 和夫

【特許出願人】

【識別番号】 595126107

【氏名又は名称】 河野 和夫

【代理人】

【識別番号】 100067758

【弁理士】

【氏名又は名称】 西島 綾雄

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 006367

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9804690

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 巻線型トランス及びこの巻線型トランスを使用した電源装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ボビンの中央部に一次巻線を装着し、この一次巻線の両側に第 1 と第 2 の二次巻線を装着し、前記一次巻線とその両側の第 1 及び第 2 の二次巻線との境界に絶縁耐圧用のパーティションを配設し、前記ボビンの一端に該ボビンの軸方向に対して直角方向に延びる第 1 の端子台を設け、前記ボビンの他端にボビンの軸方向に対して直角方向に延びる第 2 の端子台を設け、それぞれの端子台の一方側に二次高压端子を設け、それぞれの端子台の他方側に前記二次高压端子に対して距離を存した位置に一次入力端子とグランド端子を設け、前記第 1 の二次巻線の前記第 1 の端子台側の一端のリード線を前記第 1 の端子台の二次高压端子に接続し、前記一次巻線の一部のリード線と前記第 1 の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線とを前記ボビンの一端に導き、該リード線をそれぞれ前記第 1 の端子台の対応する一次入力端子とグランド端子に接続し、前記第 2 の二次巻線の前記第 2 の端子台側の一端のリード線を前記第 2 の端子台の二次高压端子に接続し、前記一次巻線の他端のリード線と前記第 2 の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線とを前記ボビンの他端に導き、該リード線をそれぞれ前記第 2 の端子台の対応する一次入力端子とグランド端子に接続し、前記ボビンにコアを装備し、一次側巻線とその両側の二次巻線とで 1 入力 2 出力を構成したことを特徴とする巻線型トランス。

【請求項 2】 前記一次巻線の一部のリード線と前記二次巻線の外周面との間、前記第 1 の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線と前記二次巻線の外周面との間、前記一次巻線の他端のリード線と前記二次巻線の外周面との間、前記第 2 の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線と前記二次巻線の外周面との間に位置して細長状の絶縁体から成る遮蔽体を配置したことを特徴とする「請求項 1」に記載の巻線型トランス。

【請求項 3】 ボビンの中央部に一次巻線を装着し、この一次巻線の両側に第 1 と第 2 の二次巻線を装着し、前記一次巻線とその両側の第 1 及び第 2 の二次巻線との境界に絶縁耐圧用のパーティションを配設し、前記ボビンの一端に該ボビ

ンの軸方向に対して直角方向に延びる第1の端子台を設け、前記ボビンの他端にボビンの軸方向に対して直角方向に延びる第2の端子台を設け、それぞれの端子台の一方側に二次高圧端子を設け、それぞれの端子台の他方側に前記二次高圧端子に対して距離を存した位置に一次入力端子とグランド端子を設け、前記第1の二次巻線の前記第1の端子台側の一端のリード線を前記第1の端子台の二次高圧端子に接続し、前記一次巻線の一端のリード線と前記第1の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線とを前記ボビンの一端に導き、該リード線をそれぞれ前記第1の端子台の対応する一次入力端子とグランド端子に接続し、前記第2の二次巻線の前記第2の端子台側の一端のリード線を前記第2の端子台の二次高圧端子に接続し、前記一次巻線の他端のリード線と前記第2の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線とを前記ボビンの他端に導き、該リード線をそれぞれ前記第2の端子台の対応する一次入力端子とグランド端子に接続し、前記ボビンにコアを装備し、一次側巻線とその両側の二次巻線とで1入力2出力型巻線型トランスを構成し、前記巻線型トランスの一次巻線に共振コンデンサを接続して一次側共振回路を設け、前記一次巻線に、一次側共振電圧のフィードバック信号に基づいて一次側共振周波数で自励発振する自励発振回路を接続したことを特徴とする電源装置。

【請求項4】第1と第2の2本の蛍光ランプのうち、第1の蛍光ランプの一方の電極を前記第1の二次巻線の二次高圧端子に接続し、第1の蛍光ランプに直列に第2の蛍光ランプを接続し、該第2の蛍光ランプを前記第2の二次巻線の二次高圧端子に接続したことを特徴とする「請求項3」に記載の電源装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、冷陰極型蛍光ランプなどを駆動するインバータ等に用いられる1入力2出力型の巻線型トランス及びこの巻線型トランスを用いた電源装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、図 8 に示すように、冷陰極型蛍光ランプ 46 を巻線型トランスの出力で駆動する場合には、巻線型トランス T の二次側の巻線の高圧端子にコンデンサを介して蛍光ランプ 46 の一方の電極を接続し、蛍光ランプ 46 の他方の電極を抵抗を介してアースに接続している。また、4 本の蛍光ランプを駆動する場合には、図 9 に示すように、蛍光ランプ 44, 46, 46, 46 ごとに巻線型トランス T1, T2, T3, T4 を用意し、2 本の蛍光ランプ 46, 46 を直列に接続し、この各一对の蛍光ランプの中、一方の蛍光ランプ 46, 46 を対応する巻線トランス T1, T3 の二次側高圧端子にバラストコンデンサを介して接続し、他方の蛍光ランプ 44, 44 を対応する巻線トランス T2, T4 の二次側高圧端子にバラストコンデンサを介して接続し、各巻線トランス T1, T2, T3, T4 の二次側の他方の端子をアースに接続している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

蛍光ランプの一方の電極を巻線型トランスの二次側高圧端子に接続し、他方の電極をアースに落として蛍光ランプを駆動する方式は、蛍光ランプの両端において電位差が生じ、トランス接続側が明るく、アース側が暗くなり、輝度にムラが生じてしまうという問題点がある。2 本の蛍光ランプを直列に接続し、2 個の巻線型トランスで 2 本の蛍光ランプを駆動する方式は、2 本の蛍光ランプの両端に高圧がかかり、明るさのムラの発生を解消することができるが蛍光ランプごとに巻線トランスが必要となってしまう、巻線トランスの小型化に適しないという問題点がある。

本発明は上記問題点を解決することを目的とするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため本発明は、ボビンの中央部に一次巻線を装着し、この一次巻線の両側に第 1 と第 2 の二次巻線を装着し、前記一次巻線とその両側の第 1 及び第 2 の二次巻線との境界に絶縁耐圧用のパーティションを配設し、前記ボビンの一端に該ボビンの軸方向に対して直角方向に延びる第 1 の端子台を設け、前記ボビンの他端にボビンの軸方向に対して直角方向に延びる第 2 の端子台を設

け、それぞれの端子台の一方側に二次高圧端子を設け、それぞれの端子台の他方側に前記二次高圧端子に対して距離を存した位置に一次入力端子とグランド端子を設け、前記第1の二次巻線の前記第1の端子台側の一端のリード線を前記第1の端子台の二次高圧端子に接続し、前記一次巻線の一端のリード線と前記第1の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線とを前記ボビンの一端に導き、該リード線をそれぞれ前記第1の端子台の対応する一次入力端子とグランド端子に接続し、前記第2の二次巻線の前記第2の端子台側の一端のリード線を前記第2の端子台の二次高圧端子に接続し、前記一次巻線の他端のリード線と前記第2の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線とを前記ボビンの他端に導き、該リード線をそれぞれ前記第2の端子台の対応する一次入力端子とグランド端子に接続し、前記ボビンにコアを装備し、一次側巻線とその両側の二次巻線とで1入力2出力を構成したものである。

また本発明は、前記一次巻線の一端のリード線と前記二次巻線の外周面との間、前記第1の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線と前記二次巻線の外周面との間、前記一次巻線の他端のリード線と前記二次巻線の外周面との間、前記第2の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線と前記二次巻線の外周面との間に位置して細長状の絶縁体から成る遮蔽体を配置したものである。

また本発明は、ボビンの中央部に一次巻線を装着し、この一次巻線の両側に第1と第2の二次巻線を装着し、前記一次巻線とその両側の第1及び第2の二次巻線との境界に絶縁耐圧用のパーティションを配設し、前記ボビンの一端に該ボビンの軸方向に対して直角方向に延びる第1の端子台を設け、前記ボビンの他端にボビンの軸方向に対して直角方向に延びる第2の端子台を設け、それぞれの端子台の一方側に二次高圧端子を設け、それぞれの端子台の他方側に前記二次高圧端子に対して距離を存した位置に一次入力端子とグランド端子を設け、前記第1の二次巻線の前記第1の端子台側の一端のリード線を前記第1の端子台の二次高圧端子に接続し、前記一次巻線の一端のリード線と前記第1の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線とを前記ボビンの一端に導き、該リード線をそれぞれ前記第1の端子台の対応する一次入力端子とグランド端子に接続し

、前記第2の二次巻線の前記第2の端子台側の一端のリード線を前記第2の端子台の二次高压端子に接続し、前記一次巻線他端のリード線と前記第2の二次巻線の前記一次巻線と接する側の巻線の端部のリード線とを前記ボビンの他端に導き、該リード線をそれぞれ前記第2の端子台の対応する一次入力端子とグランド端子に接続し、前記ボビンにコアを装備し、一次側巻線とその両側の二次巻線とで1入力2出力型巻線型トランスを構成し、前記巻線型トランスの一次巻線に共振コンデンサを接続して一次側共振回路を設け、前記一次巻線に、一次側共振電圧のフィードバック信号に基づいて一次側共振周波数で自励発振する自励発振回路を接続したものである。

また本発明は、第1と第2の2本の蛍光ランプのうち、第1の蛍光ランプの一方の電極を前記第1の二次巻線の二次高压端子に接続し、第1の蛍光ランプに直列に第2の蛍光ランプを接続し、該第2の蛍光ランプを前記第2の二次巻線の二次高压端子に接続したものである。

【0005】

【発明の実施の形態】

以下に本発明の実施の形態を添付した図面を参照して詳細に説明する。

図1において、2は巻線型トランス44のボビンであり、その角筒部には所定の間隔を存して四角形の絶縁耐压用の板状のパーティション4, 6, 8, 10, 12, 14が複数固設され、ボビン2上に、巻線用の凹入部を形成している。前記ボビン2の軸方向の両端には該ボビン2の軸方向に対して直角方向に延びる端子台16, 18が固設され、これに端子20, 22, 24, 26, 28, 30が固着されている。

【0006】

ボビン2の一端側の端子台16には、その一方側に二次高压端子24が配置され、その他方側に、一次入力端子22と二次グランド端子20が配置されている。一次入力端子22とグランド端子20は、二次高压端子24の高電圧の影響を受けないように、できるだけ離して、端子台16の他方側に配置されている。ボビン2の他端側の端子台18には、その一方側に二次高压端子30が配置され、これからできるだけ離れた他方側に一次入力端子28と二次グランド端子26が

配置されている。前記端子台 16, 18 の前記端子 20, 22 と 26, 28 取付側に形成されたガイド取付溝 16a, 18a 間には細長状の絶縁体から成る遮蔽体 34 が架設され、該遮蔽体 34 の凹部 34b が対応するパーティション 4, 6, 8, 10, 12, 14 の外縁に嵌合している。前記遮蔽体 34 には、その長手方向に沿って、前記ボビン 2 と対面する側とは反対側に開放された溝から成るリード線ガイド部 34a が設けられている。

【0007】

ボビン 2 の中央のパーティション 8, 10 で囲まれた凹入部には、一端側 A を巻始めとして、一次巻線 32 が例えば右巻きで巻回されている。一次巻線 32 の巻始め端側 A のリード線 32a は、遮蔽体 34 に形成された、穴 36 を通じて、遮蔽体 34 のリード線ガイド部 34a 内に配置され、該リード線ガイド部 34a を通って、ボビン 2 の一端側に導かれ、端子台 16 に形成された案内溝を介して一次側入力端子 22 に接続している。一次巻線 32 の終端側 D のリード線 32a は、遮蔽体 34 に形成された、穴 38 を通じて、遮蔽体 34 のリード線ガイド部 34a 内に配置され、該リード線ガイド部 34a を通って、ボビン 2 の他端側に導かれ、端子台 18 に形成された案内溝を介して一次側入力端子 28 に接続している。ボビン 2 上の一次巻線 32 の一方側には、ボビン 2 の一端側 B を巻始めとして、第 1 の二次巻線 39 が右巻きで、端子台 16、パーティション 4 間、パーティション 4, 6 間、パーティション 6, 8 間の各凹入部に順次巻回されている。

【0008】

二次巻線 39 の中間を複数のパーティション 4, 6, 8 によって区画したのは、二次巻線 39 の絶縁耐圧を考慮したものである。第 1 の二次巻線 39 の巻始め端側 B のリード線 39a は、端子台 16 に形成された溝を通して、二次高圧端子 24 に導かれ、これに接続している。第 1 の二次巻線 39 の終端側 C のリード線 39b は、穴 36 を介して遮蔽体 34 のリード線ガイド部 34a 内に配置され、リード線 32a とともに該リード線ガイド部 34a を通って、ボビン 2 の一端側に導かれ、端子台 16 に形成された案内溝を介して二次側グランド端子 20 に接続している。ボビン 2 の中央の一次巻線 32 の他方側には、パーティション 10

と接する側Dを巻始めとして、第2の二次巻線41が右巻きで、パーティション10、12間、パーティション12、14間、パーティション14、端子台18間の各凹入部に順次巻回されている。

【0009】

一次巻線32の左右に対称に配置された第1と第2の二次巻線39、41は同一の構造である。第2の二次巻線41の終端側Eのリード線41bは、端子台18に形成された溝を通して、二次高圧端子30に導かれ、これに接続している。第2の二次巻線41の巻き始め端側Dのリード線41aは、穴38を介して遮蔽体34のリード線ガイド部34a内に配置され、一次巻線32のリード線32aとともに該リード線ガイド部34aを通して、ボビン2の他端側に導かれ、端子台18に形成された案内溝を介して二次側グランド端子26に接続している。以上の巻線構造から明らかなように、パーティション8、10間の一次側巻線32の両端は二次巻線39、41の電圧の低いグランド側と接することになり、隣接する、一次巻線35の電圧と二次巻線39、41の電圧との差が小さくなる。

【0010】

そのため、一次巻線32と二次巻線39、41との間の絶縁耐压構造を簡単な構造とすることができる。一次巻線32と、二次巻線39、41のグランド側は、電位差が小さいので、共通のリード線ガイド部34aを通して、両者を平行に配置しても絶縁耐压に問題はない。なお、遮蔽体34に複数のリード線ガイド部を設け、リード線を一本ずつリード線ガイド部に配置するようにしても良い。42はコアであり、ボビン2の外側に配置されるとともに、該コア42の内側部分42aがボビン2の筒部内に配置されている。上記した巻線型トランス44は、1入力2出力を構成し、このトランスを用いて2本の冷陰極蛍光ランプを明るさに明暗のムラのない状態で駆動することができる。この場合、2本のランプは、両端が二次巻線39、41の高圧側に接続されるので、ランプの両端に明るさの差が生じることがない。

【0011】

上記した1入力2出力巻線型トランス44は、このトランスの一次側で直列あるいは並列共振回路を構成し、トランスの一次側に共振電圧を発生させる自励発

振回路により駆動されることが望ましい。この場合、トランスの一次側に電源電圧より高い高電圧が発生することにより、二次側の巻線の量を少なくでき、結果として、従来の1入力1出力の巻線型トランスと同じ大きさで2出力を実現することができる。また、1入力2出力巻線型トランスは、トランスの中央部に一次コイルとコアによる発熱が集中するが、この発熱はトランスの中央部に発生するので、二次巻線との結合のバランスが良好な状態に保持され、トランスが効率的に動作する。従来の1入力1出力の巻線型トランスのように、発熱がトランスの片側に集中すると、一次巻線と二次巻線との結合にアンバランスが生じ効率化の妨げとなる。図6において、120は、遮蔽体の他の実施形態を示し、断面形状を三角形としている。

【0012】

次に巻線型トランスの一次側に共振電圧を発生させる自励発振回路により巻線型トランス44を駆動する実施形態を図6を参照して説明する。

図6中、52, 54, 56, 58はFETから成るスイッチング素子であり、各々のスイッチング素子のソース、ドレイン間には転流ダイオード60, 62, 64, 66が接続されている。スイッチング素子52, 54, 56, 58の各々のゲートにはゲート制御回路68, 70, 72, 74が接続され、これらのうち、ゲート制御回路68, 72はPWM制御回路76に接続し、ゲート制御回路70, 74はロジック回路78に接続している。PWM制御回路76は、ランプ20に流れる電流を検出する整流平滑回路80から信号を受け取り、この信号のレベルがライン82から与えられる設定値になるように、スイッチング素子52, 56の導通角を制御する。44は基板(図示省略)に固設された1入力2出力型の巻線型トランスであり、2本の冷陰極型蛍光ランプ46, 46が直列に接続し、蛍光ランプ46, 46の各一端は、巻線型トランス44の二次側コイル39, 41の高圧端子側にそれぞれ接続している。二次側巻線39, 41の各一端は、それぞれ抵抗を介して接地されている。

【0013】

一方の抵抗48は、電流検出回路を構成し、リード線を介して、ランプオープン・ランプショート検出回路90と起動補償回路88に接続している。位相検出

回路 51 は、リード線 27 を介して、LC 直列共振回路の midpoint P に接続している。ロジック回路 78 は、リード線 27 に接続する位相検出回路 51 からの一次側共振位相信号に基づいて、スイッチング素子をオンオフさせるための信号を造出し、PWM 制御回路 76 を介してゲート制御回路 68, 72 にオンオフ制御信号を送るとともに、ゲート制御回路 70, 74 にオンオフ制御信号を送るように構成されている。位相検出回路 51 は、LC 直列共振回路の midpoint P の位相電圧信号から 90 度遅れた補正位相信号をロジック回路 78 に供給する。この信号は、一次側 LC 直列共振回路に流れる電流と同位相となる。一次側直列共振回路に流れる電流は、キャパシタ C1 の充電電圧が直流電源電圧に到達しても、トランス 44 の一次側端子の電圧は電氣的に 90 度の位相時間が経過した後に 0 V を越えて更に低下し、更に 90 度の位相時間が経過してマイナスの最大値になる。

【0014】

この時、この電圧から 90 度遅れた信号は 0 V となるので、このタイミングでスイッチング制御信号をオンオフする。ロジック回路 78 はこのようにして交互にスイッチング制御信号を出力する。ロジック回路 78 は、調光信号が入力される調光制御回路 84 の出力信号に基づいて、調光制御信号を造出し、この調光制御信号によってスイッチング素子オンオフのバースト制御と PWM 制御回路 76 のスイッチオンパルス幅を制御し、ランプ 46, 46 の明るさを一定に保つことと、調光信号に基づいて、輝度ゼロから 100% まで任意の値に設定し得るように構成されている。また、ロジック回路 78 には過電流検出回路 86 が接続し、ランプ 20 に過電流が流れたとき、ロジック回路 78 は、これを検出し、過電流を阻止する信号を PWM 制御回路 76 に送り過電流を防止するように構成されている。

【0015】

起動補償回路 88 は、ランプ 46 の通電回路に接続し、ランプ 46 の電流信号が入力されるように構成されている。起動補償回路 88 は、電源オンオフ時、自励発振回路が確実に起動するように、起動補償信号を位相検出回路 51 に入力する。位相検出回路 51 は、この起動補償信号を受けて、ロジック回路 78 に自励発振のための起動信号を出力する。起動補償回路 88 は、位相検出回路 51 から

位相補正された信号がロジック回路 78 に入ってトランス一次側に電流がロジックで決められた方向に流れても、ランプ 46 が放電を開始しない事がある。起動補償回路 88 は、このような場合の起動補償のために設けられている。この場合、確実にランプ 46 を点灯させるために、起動補償回路 88 は、ランプ 46 を流れる電流を検出してランプ 46 が点灯したか否か判断し、点灯していない時は、点灯するまで起動補償信号を位相検出回路 51 に送り出す。

【0016】

位相検出回路 51 はこの起動補償信号を受けてランプ 46 が点灯するまで起動信号をロジック回路 78 に出力する。調光制御回路 84 では、調光信号入力 of 電圧が、内蔵の三角波発振回路の出力電圧と比較されて、所定の周期のバースト調光信号を生成する。この信号のデューティサイクルに従って、全体のロジック信号を ON-OFF させ結果的に明るさを制御している。この方法は、消灯から全点灯まで自由に調整が可能であるが、ランプ 46 はこの調光信号の周期で ON-OFF されているため、その周期ごとに起動確認と確実な起動が必要となる。そのため、起動補償回路 88 は、上記のごとく、確実な点灯を実現するために、はじめに起動補償信号を位相検出回路 51 に送り出している。起動補償の動作を図 9 を参照して説明すると、始めて電源を入れる時や、ランプが点灯していない時、例えば、電流が I1 の方向に流れる様にスイッチング素子 52 と 58 とを決められたパルス幅で ON にする。

【0017】

これによりコンデンサ (C1) とトランス 44 の一次巻線に電流が流れ、位相検出回路 51 にリード線 27 を通じて信号が入り、I2, I1, I2, I1 と交互に電流が流れ、自励発振回路は、検出した共振周波数で発振を開始する。起動補償回路 88 は、ロジック回路 78 の初期リセット (起動時) も作っている。もしランプ 46 が点灯しなかった場合は、再度リセットし、始めの起動信号を位相検出回路 51 を通じてロジック回路 78 に対し送出する。ランプオープン・ショート検出回路 90 は、巻線型トランス 10 の二次側に接続し、二次側の電圧及び電流を検出する。ランプ 46 が点灯していないか又はランプ 46 が取り付けられていない状態即ちランプオープンやランプの配線等がショートした状態即ちラン

プショートのと、位相検出回路 51 を通じてロジック回路 78 に信号を送り、ロジック回路 78、PWM 制御回路 76 及びゲート制御回路 68、70、72、74 から成る制御回路を遮断するように構成されている。過電流検出回路 86 は、PWM 制御回路 76 が不良であったり、又は、ランプ 20 の配線がショートした時等において、ロジック回路 78 に信号を送り、制御回路を遮断する。

【0018】

上記した構成において、電源スイッチがオンとなり、ゲート制御回路 68、74 又は 72、70 のいずれかに PWM 制御回路 76 及びロジック回路 78 からオン信号が瞬間的に供給されると、直流電源がスイッチング素子 52、58 を通じて、I1 の方向に、あるいは、スイッチング素子 56、54 を通じて、I2 の方向に、巻線型トランス 10 の一次側巻線に電流が流れる。これにより、自励発振回路が起動し、巻線型トランス 44 が共振電圧を発生する。巻線型トランス 44 の一次側の共振電圧の周波数は、リード線 27 により、位相検出回路 51 に供給される。ロジック回路 78 と PWM 制御回路 76 は、位相検出回路 51 からの位相信号に基づいて、ゲート制御回路 68、70、72、74 を駆動し、スイッチング素子 52、54、56、58 をオンオフ制御する。スイッチング素子 52、54、56、58 のオンオフによって電流は、I1 と I2 の方向に交互に流れ、自励発振回路は、巻線型トランス 10 の一次側共振周波数で自励発振する。2 本の蛍光ランプ 46、46 の各両端電極には、トランスの二次側巻線の高電圧が印加されるため、明るさにムラが生じない。前記巻線型トランス 44 は、図 7 に示すように、基板に正しい向きで固定されると、ボビン 2 の軸方向に対して直角方向に延びる端子台 16、18 の右側に、ボビン 2 を挟んで、二次高圧端子 24、30 が並び、左側に、グランド端子 20、26 と、一次入力端子 22、28 とがボビン 2 を挟んで並ぶ。そのため、巻線型トランス 44 に、コネクタ 128 を介してランプ 46、46 を最短距離でシンプルに接続でき、トランス 44 とランプ 46、46 間の接続配線及び自励発振回路との接続配線をきわめてシンプルな構成とすることができる。

【0019】

しかも、図 7 から明らかなように、巻線型トランスの右側に高圧端子、左側に

低圧端子が配置されるので、トランスの高圧側と低圧側との縁面距離を広くとることができる、トランスの安定的動作と小型化を図ることができる。

尚、上記実施形態はいずれも、巻線型トランスの一次側共振周波数を、巻線型トランスの一次側からリード線を通じて取り出しているが、この構成に特に限定されるものではなく、巻線型トランスの二次側の共振周波数から、周波数解析回路により一次側共振周波数を検出し、この検出信号によってロジック回路 78 や PWM 制御回路 76 等を動作させるようにしても良い。

本実施形態は上述の如く、巻線型トランスの一次側に入力電源電圧より高い共振電圧が得られるので、巻線型トランスの二次側の巻線数を少なくでき、小型化が可能である。そのため、本発明に使用される巻線型トランスは、普通の 1 入力 1 出力型の巻線型トランスとほぼ同じ大きさで、1 入力 2 出力型の巻線型トランスとすることが可能となる。

【0020】

【発明の効果】

本発明は上述の如く巻線型トランスの高圧側と低圧側との縁面距離を広くとることができる、しかも、負荷との接続配線をきわめてシンプルにすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の巻線型トランスの説明的裏面図である。

【図 2】

遮蔽体の平面図である。

【図 3】

A-A 線断面図である。

【図 4】

本発明の巻線型トランスの側面図である。

【図 5】

巻線型トランスの要部の断面図である。

【図 6】

本発明の応用例を示すブロック回路図である。

【図 7】

本発明の説明図である。

【図 8】

従来技術の回路図である。

【図 9】

従来技術の回路図である。

【符号の説明】

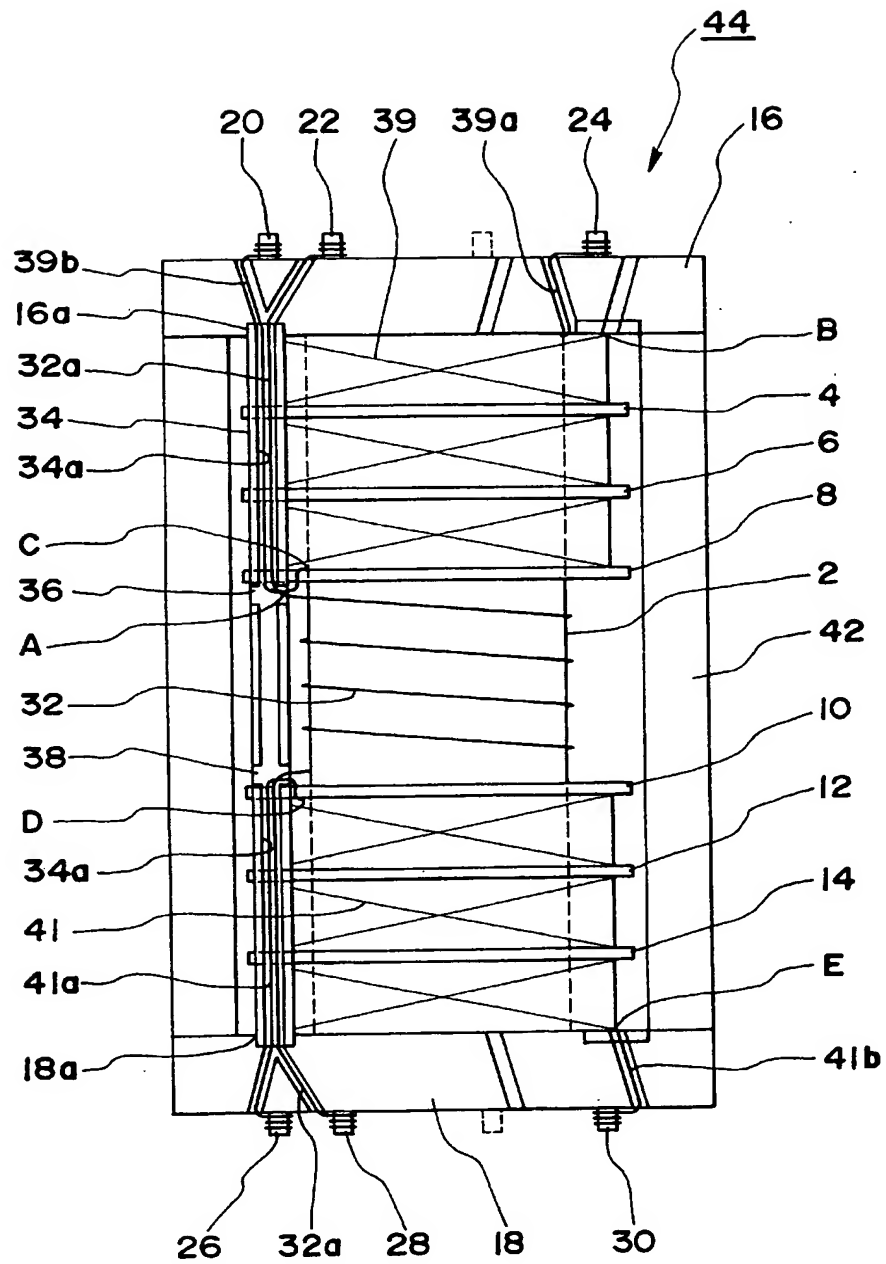
2	ボビン
4	パーティション
6	パーティション
8	パーティション
10	パーティション
12	パーティション
14	パーティション
16	端子台
18	端子台
20	端子
22	端子
24	端子
26	端子
28	端子
30	端子
32	一次巻線
34	遮蔽体
39	二次巻線
41	二次巻線
42	コア

- 4 4 巻線型トランス
- 4 6 冷陰極型蛍光ランプ
- 4 8 抵抗
- 5 0 誤動作防止回路
- 5 1 位相差造出回路
- 5 2 ~ 5 8 スイッチング素子
- 6 2 ~ 6 6 転流ダイオード
- 6 8 ゲート制御回路
- 7 0 ゲート制御回路
- 7 2 ゲート制御回路
- 7 4 ゲート制御回路
- 7 6 PWM制御回路
- 7 8 ロジック回路
- 8 0 整流制御回路
- 8 2 ライン
- 8 4 調光制御回路
- 8 6 過電流検出回路
- 8 8 起動補償回路
- 9 0 ランプオープン・ショート検出回路
- 9 2 ボビン
- 9 4 二次巻線
- 9 6 端子台
- 9 8 リードピン
- 1 0 0 パーティション
- 1 0 2 端子台
- 1 0 4 リードピン
- 1 0 6 F巻線
- 1 0 8 一次巻線
- 1 1 0 リードピン

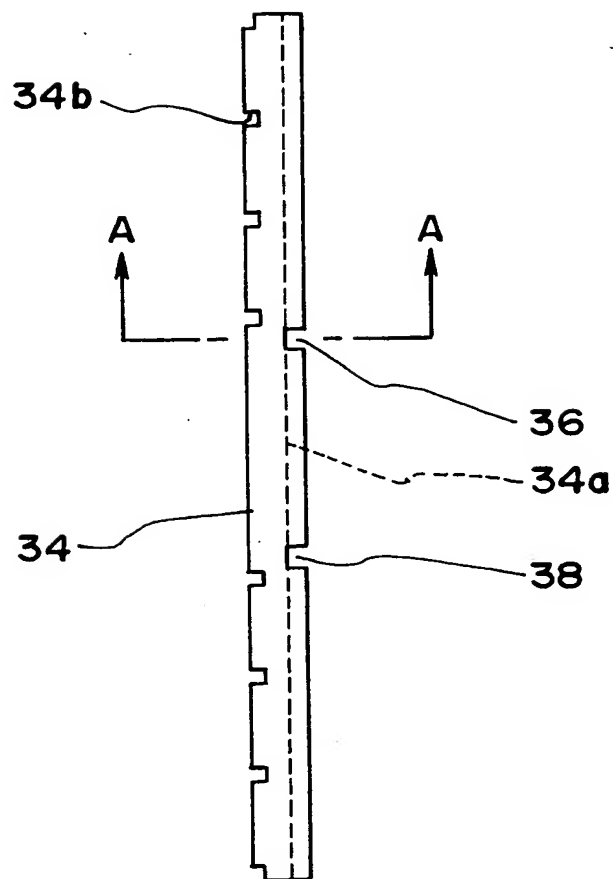
- 1 1 2 リードピン
- 1 1 4 リードピン
- 1 1 6 リードピン
- 1 1 8 リードピン
- 1 2 0 ガイド
- 1 2 2 切欠部
- 1 2 4 ガイド
- 1 2 6 穴
- 1 2 8 コネクター

【書類名】 図面

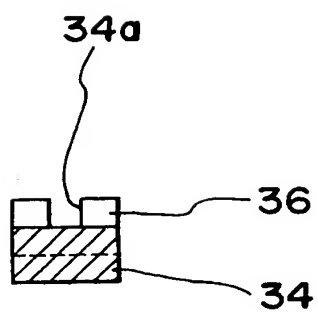
【図 1】



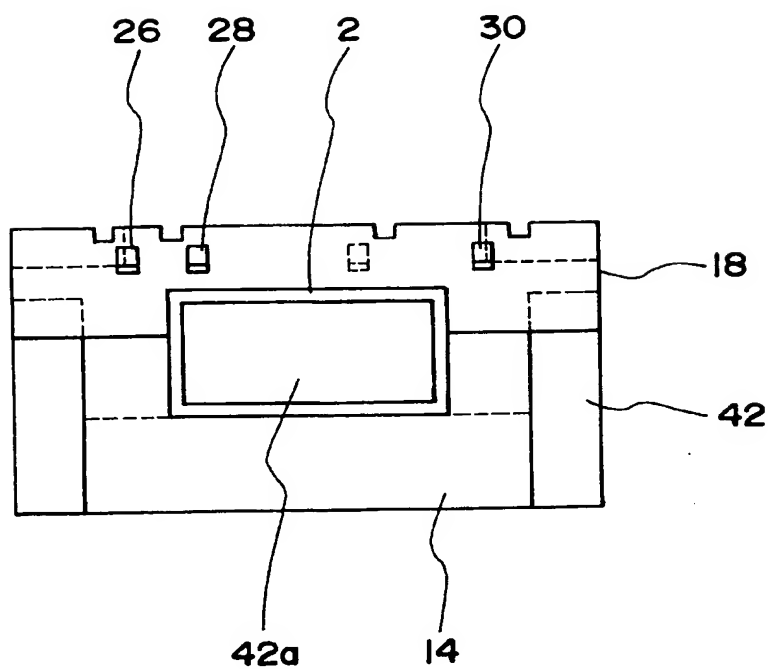
【図 2】



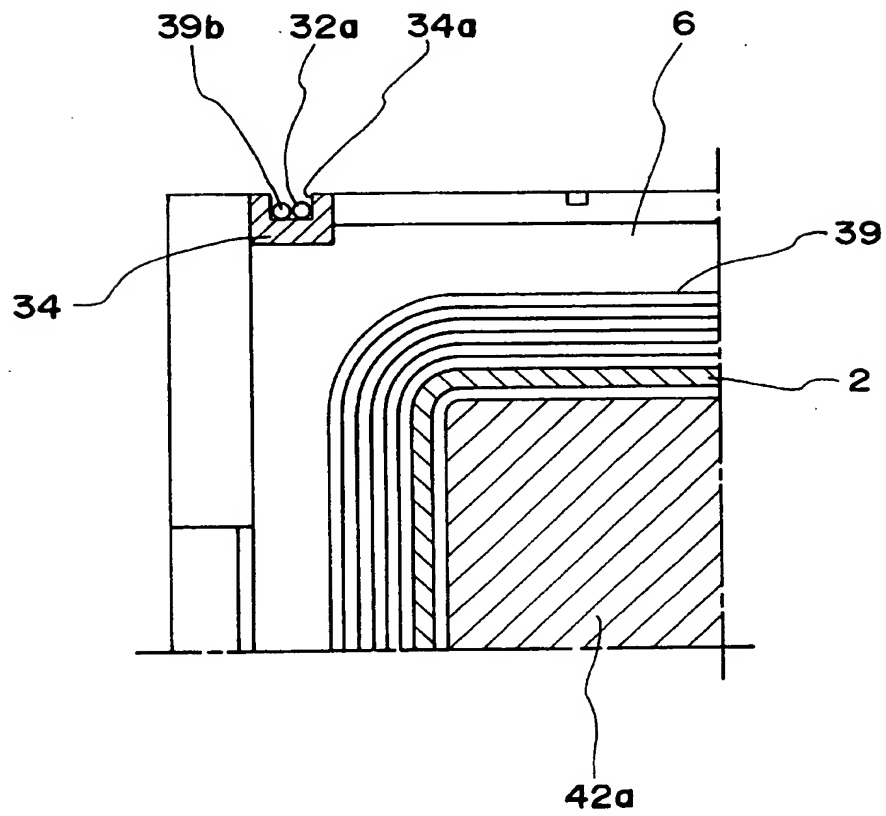
【図 3】



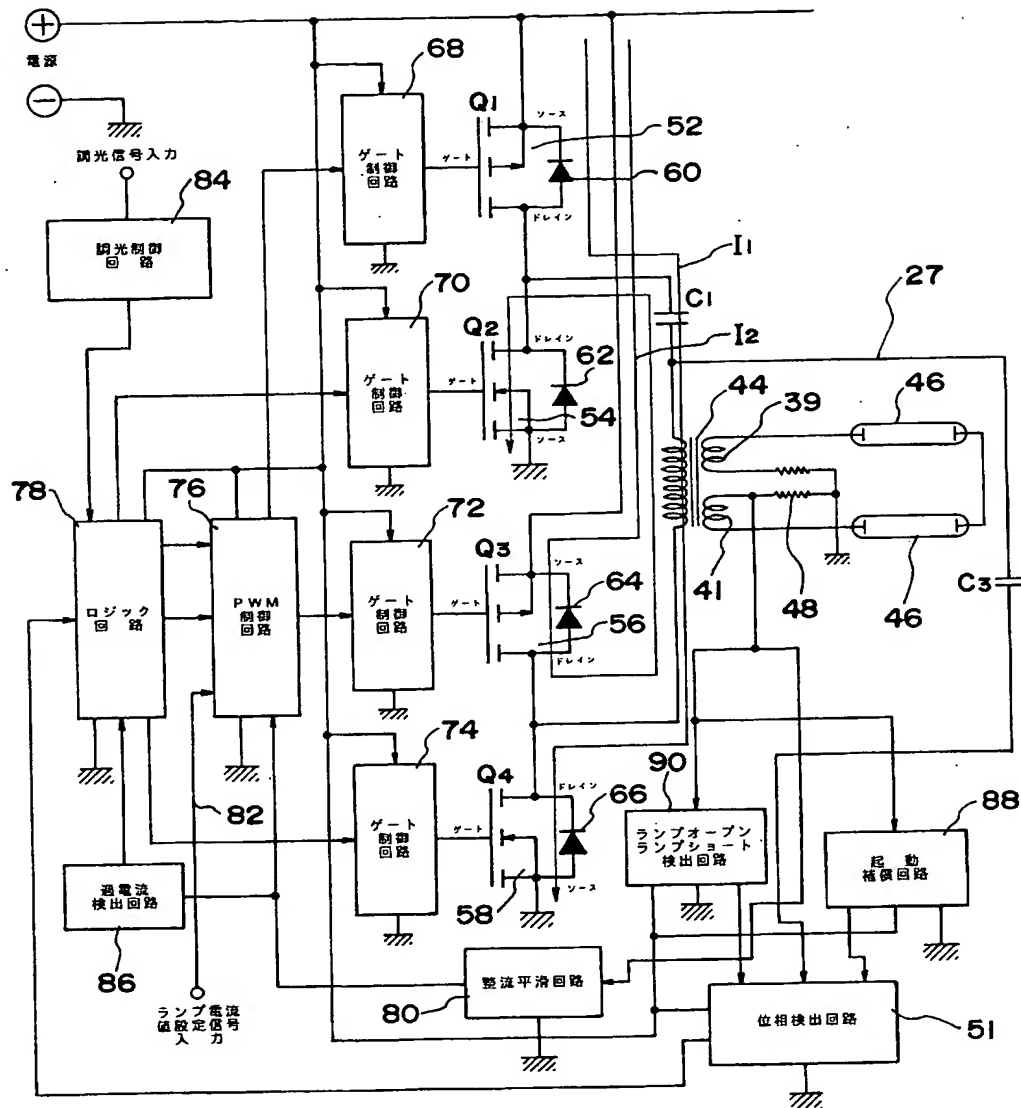
【図 4】



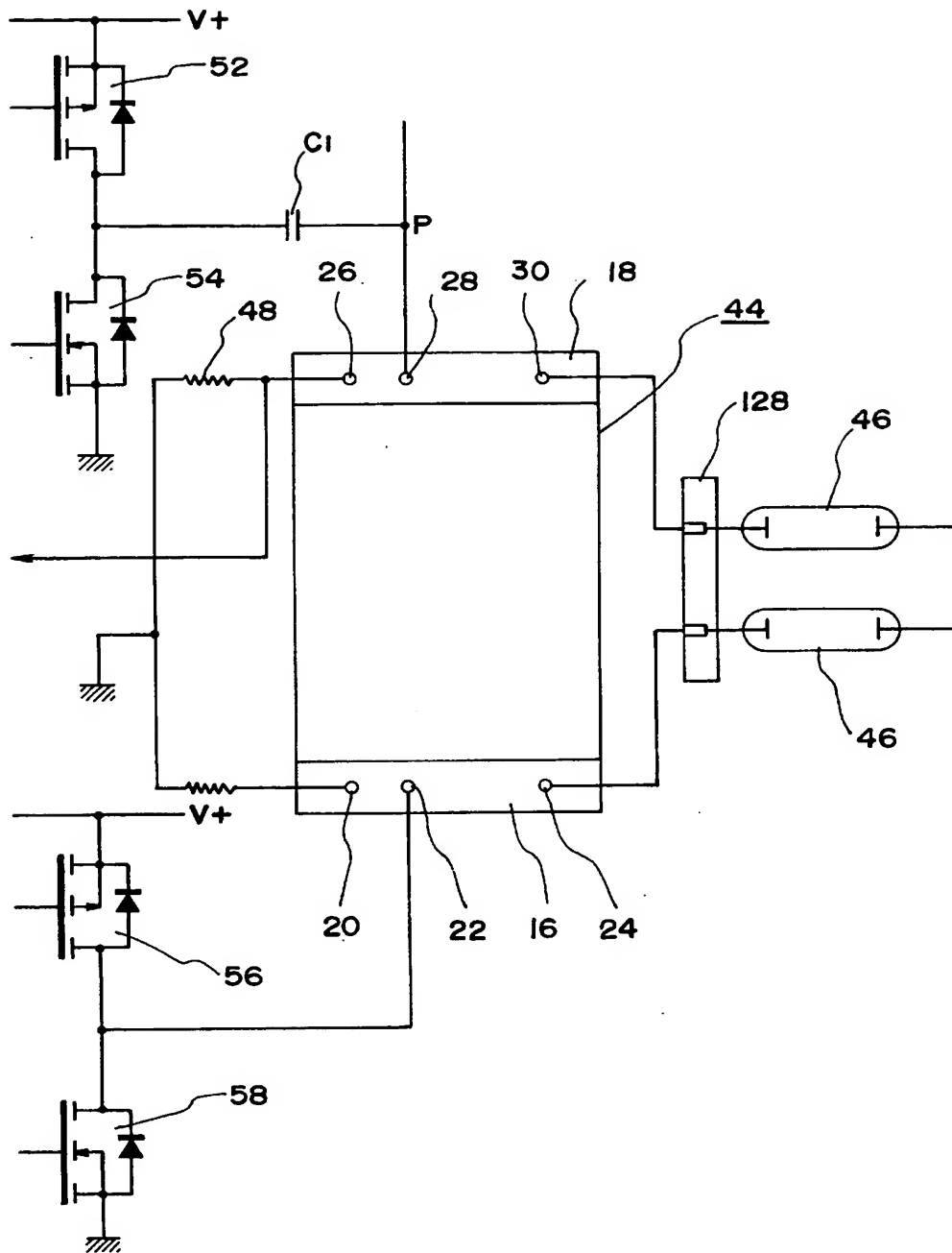
【図 5】



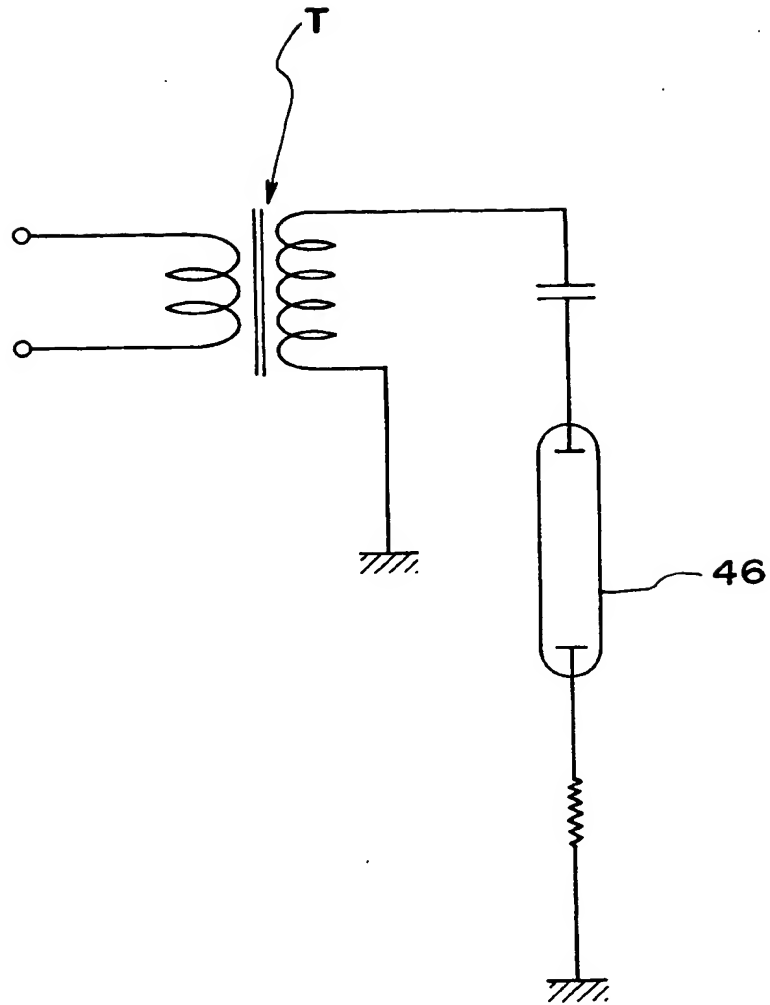
【図 6】



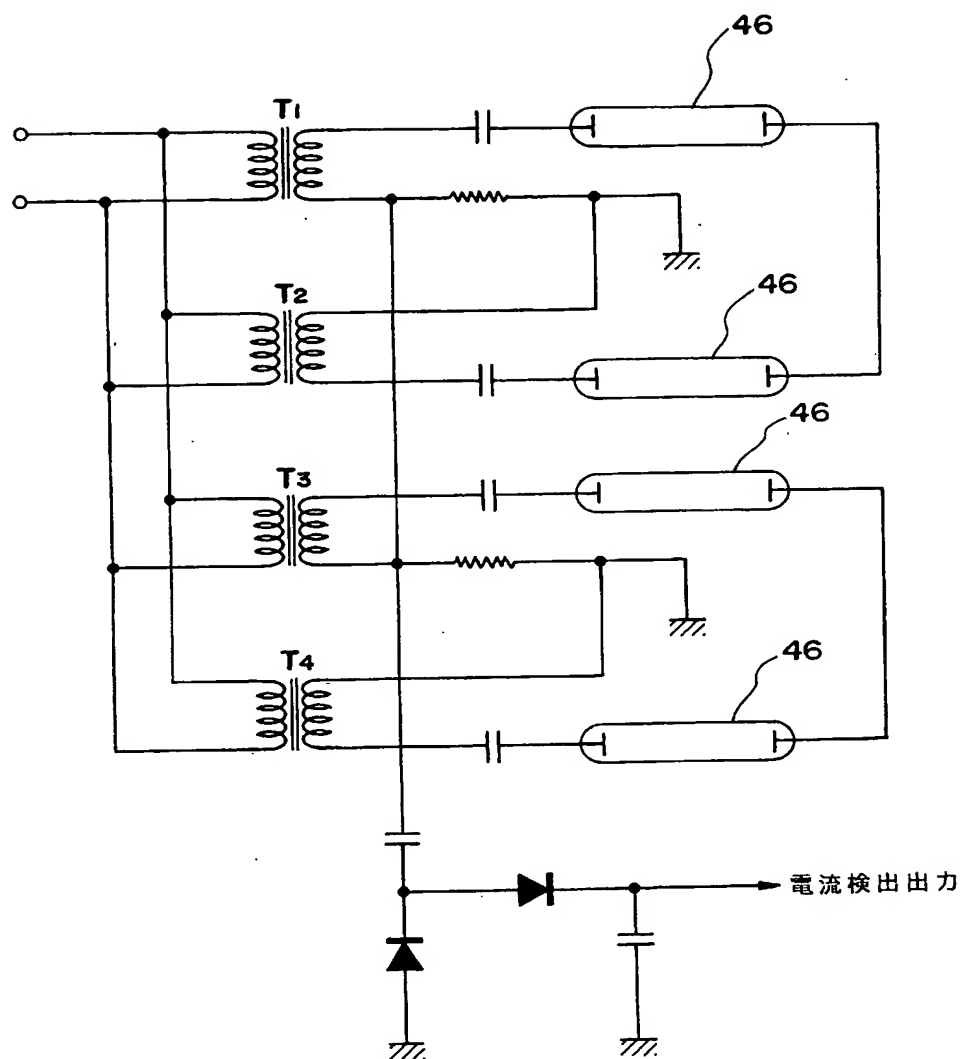
【図 7】



【図 8】



【図 9】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 巻線型トランスの小型化と端子間の耐電圧距離を広くとれるようにする。

【解決手段】 ボビン 2 の中央部に一次巻線 32 を装着し、この一次巻線 32 の両側に第 1 と第 2 の二次巻線 39, 41 を装着する。第 1 の二次巻線の一端のリード線 39a を第 1 の端子台 16 の二次高圧端子 24 に接続し、一次巻線 32 の一端のリード線 32a と第 1 の二次巻線 39 のリード線 39b とをボビン 2 の一端に導き、それぞれ第 1 の端子台 16 の対応する一次入力端子 22 とグランド端子 20 に接続する。第 2 の二次巻線 41 の一端のリード線 41b を第 2 の端子台の二次高圧端子 30 に接続し、一次巻線 32 の他端のリード線 32a と第 2 の二次巻線 41 のリード線 41a とをボビン 2 の他端に導き、それぞれ第 2 の端子台 18 の対応する一次入力端子 28 とグランド端子 26 に接続する。ボビン 2 にはコア 42 を装備し、一次側巻線 32 とその両側の二次巻線 39, 41 とで 1 入力 2 出力の構成とする。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-012537
受付番号	50300090245
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成15年 1月22日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年 1月21日
-------	-------------

次頁無

特願 2 0 0 3 - 0 1 2 5 3 7

出 願 人 履 歷 情 報

識別番号

[5 9 5 1 2 6 1 0 7]

1. 変更年月日

1 9 9 5 年 8 月 9 日

[変更理由]

新規登録

住 所

千葉県山武郡大網白里町四天木 3 3 2 - 3 0

氏 名

河野 和夫